

COVID-19 対応について

―来院者トリアージ と つつじ外来、手術縮小―

川崎市立川崎病院 ご利用の皆様へ

2020.4.24. 川崎市立川崎病院

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の感染拡大が進んでおります。市民の皆様には大きなご心配をおかけしているものと推察致します。これまでの当院の対応を簡単に説明させていただくとともに、現在の状況と皆様へのお願いをお伝えいたします。

当院は神奈川県下に八つある第2種感染症指定病院の一つで、川崎市内には当院のみです。届出病床数は12床/5室となっておりますが、呼吸器感染症の場合は個室が好ましいので6床運用となります。2類感染症など特別な感染症の患者さんは、来院の時から一般の患者さんとは入口を別にし、エレベーターなど病棟への動線を分けています。さらに、病棟は独立しており、病室は全て陰圧が維持されていて病原体が外に出ないようにしてあります。医師・看護師は厳密なルールの下、防護服等を着用して診療にあたっており、自らや他の患者さんに感染させることはありません。一方、一般の患者さんは感染症病棟に近づくことはできず、院内でこの種の感染を心配される必要は全くありません。ご安心ください。

2月上旬の横浜寄港のクルーズ船のCOVID-19 集団感染時は、この感染症病棟を2室拡張してフルに利用し、多くの外国人を含む13名の患者さんを治療しました。全員がすでに治癒退院しています。3月中旬、クルーズ船が一段落する間も無く、市中感染のCOVID-19 患者の発生は続き、4月上旬、病室をさらに3室拡張し（計15床）対応いたしました。4月中旬には、重症患者の対応に重点を置く必要から、救命センター病棟全体を陰圧化して全体をCOVID-19用の病棟（計25床）といたしました。これに伴い、救命病棟機能の移動、一般病棟の縮小、医師専用チームの編成を行いました。また、空気感染隔離ユニットなど、多くの医療機器や設備を緊急整備しています。このように、当院では途切れることなく3ヶ月近くに渡り、機能拡張を計りながらCOVID-19 感染拡大に対応しています。すでに27名のCOVID-19 患者さんが治癒退院されています。ご安心ください。

このような経過の中、常識的な職員の手指消毒の徹底はもとより、全職員の出勤時の検温と記録、4月新規採用者の検疫、入院患者の面会禁止、適切な防護具の使用などにより、院内の衛生的環境は清潔で安全に維持されております。過日、発生した事務系職員1名の感染については、濃厚接触者2名の陰性確認が得られ、さらに14日間の健康観察が過ぎ、現在は3名とも問題がなくなっております。ご安心ください。

しかしながら、東京では、一般患者から高率でコロナPCR陽性が検出されることが報告され、市中にCOVID-19が広がっていることが想像されます。特に、医療職の感染が病院機能を低下させる事例が相次いでいます。川崎市でも、今以上の市中感染拡大を想定しなけ

ればならず、川崎病院の対感染症医療機能を絶対に損なってはいけない状況にあります。そこで、以下のような方策を考えましたので、市民のみなさまには、状況をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

<来院者トリアージとつつじ外来>

発熱や風邪症状があり COVID-19 感染の可能性がある方は、一般の方とは診療環境を分けた方がよろしいかと思えます。川崎市の基本的なルールでは、保健所に設置している帰国者・接触者センターにお問い合わせいただき、受診する病院を紹介いただくことになっています。そこでこれが難しく、当院に直接ご来院した患者さんを含めて、すべての来院患者・来院者には、正面玄関で検温によるトリアージをさせていただき、問題がある場合には、それ以外の方と動線を分け、裏手に設置した“つつじ”外来（綺麗に開花したつつじに囲まれている臨時外来です。）での診療を受けていただきます。こちらで、医師がチェックした上で、その後の方針を決める手はずとなっています。当院が院内感染を起こすと、病院機能が停止し、重大な事態を引き起こします。どうか、そのような事態を招かないための対策ですので、ご理解いただき、ご協力をお願いするものです。

<手術縮小>

そして、COVID-19 の世界的な蔓延の影響で、医療資源の不足が起きていて、予定手術の実施に支障が出ています。命に関わる急性の病態や悪性疾患に対しての手術は、資源の節約や感染リスクの低減の工夫をして実施いたしますが、良性疾患に対する手術などは延期させていただいています。何卒、ご理解いただけますようお願いいたします。

私達は、川崎市民のために、大きなストレスの中で、精一杯闘っています。最前線の看護師・医師の奮闘は3ヶ月近くになります。このような中、美容院や保育園等で病院職員と承知した上での、来院・来園拒否などの心ない対応が発生しています。最前線の者たちは、市民の代表として使命感を持って任にあたっているのです。どうか、敬意と応援の気持ちで暖かく、見守ってほしいと思えます。

社会が重大な惨禍にさらされる中、川崎病院の基本的使命は、感染症対応、救命救急医療、人道的医療であると考えています。この機能は守り抜きます。川崎病院は、これからも最前線で頑張りますので、市民の皆様には、正しい認識、冷静な判断、大きな協力、暖かい応援を伏してお願いするものです。川病は逃げない。

2020.4.24.

川崎市立川崎病院 病院長 金井歳雄